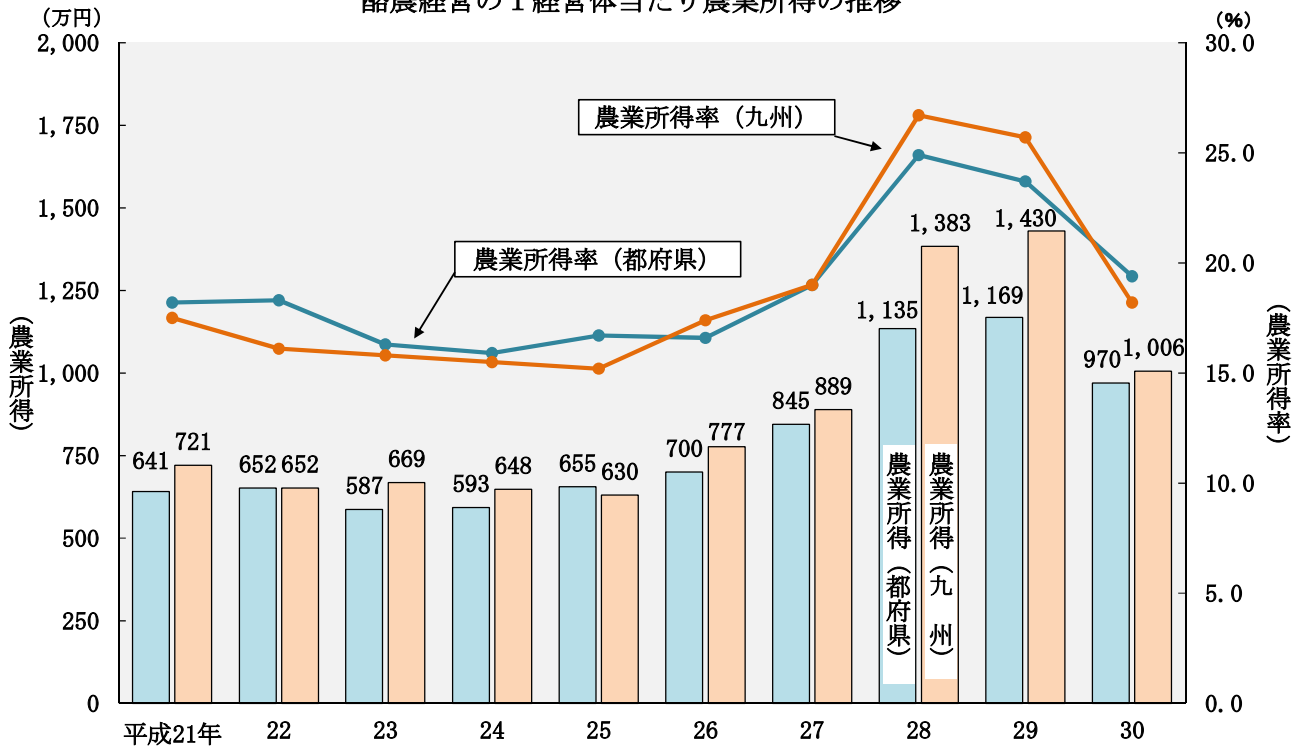


8 酪農経営の収益性（個別経営）

(1) 1経営体当たり農業所得と粗収益の推移

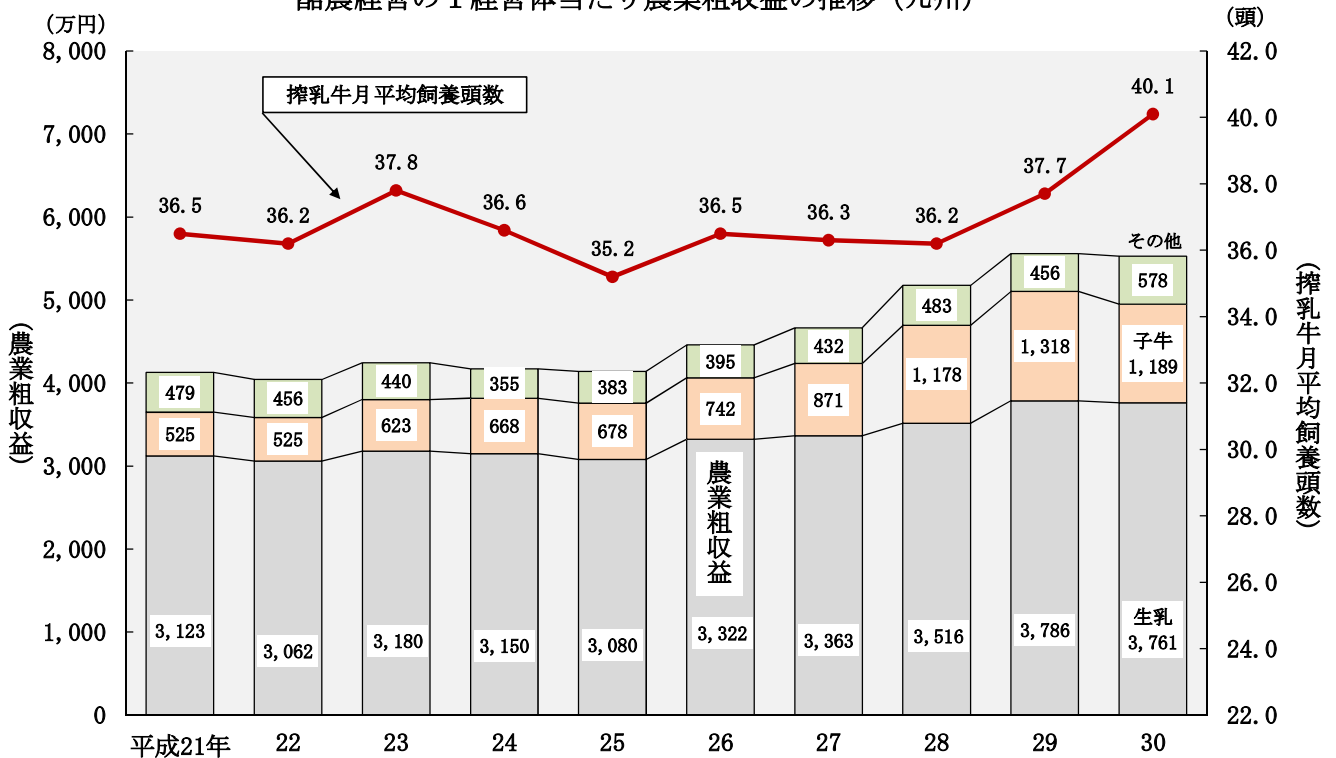
- 九州の酪農経営の1経営体当たり農業所得は、平成25年以降増加が続いていたが、平成30年は減少。
- 1経営体当たり農業粗収益は、生乳及び乳子牛の粗収益が増加したことにより平成26年以降増加が続いていたが、平成30年は前年よりやや減少。

酪農経営の1経営体当たり農業所得の推移



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

酪農経営の1経営体当たり農業粗収益の推移（九州）

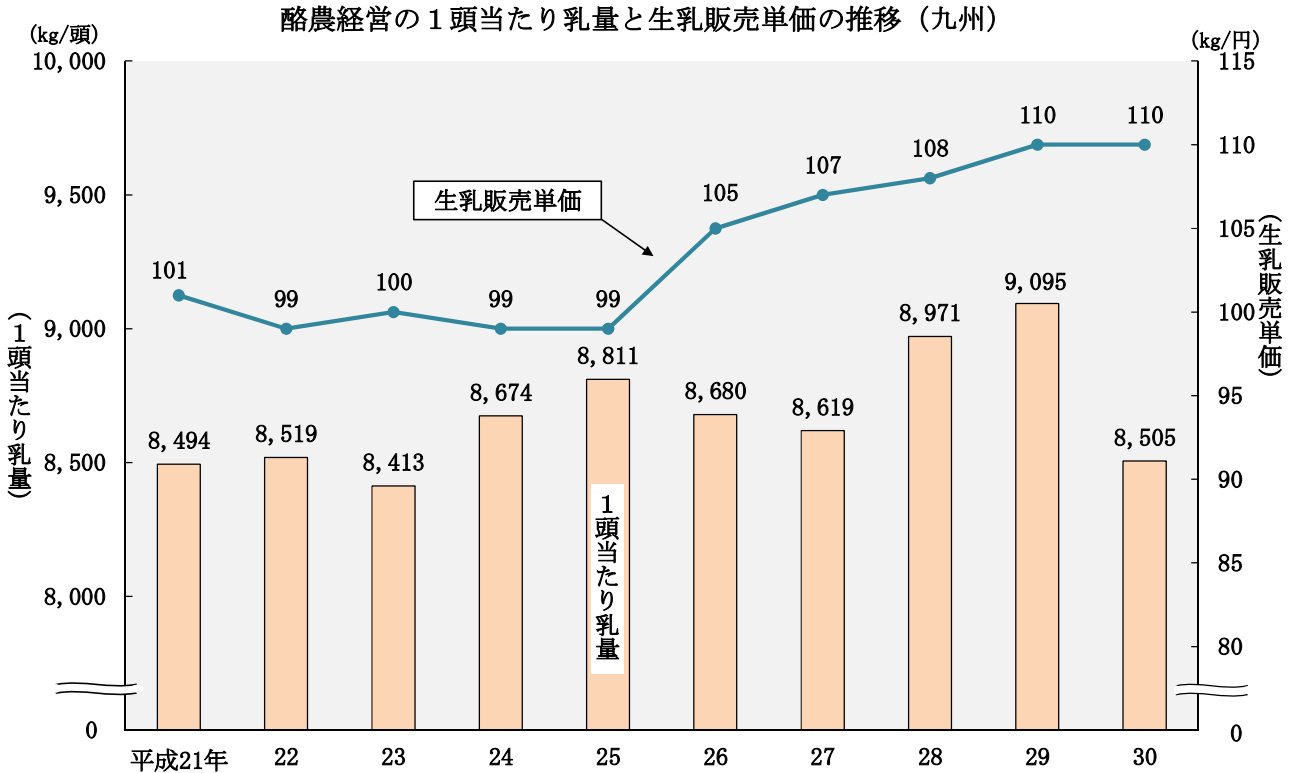


資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

8 酪農経営の収益性（個別経営）

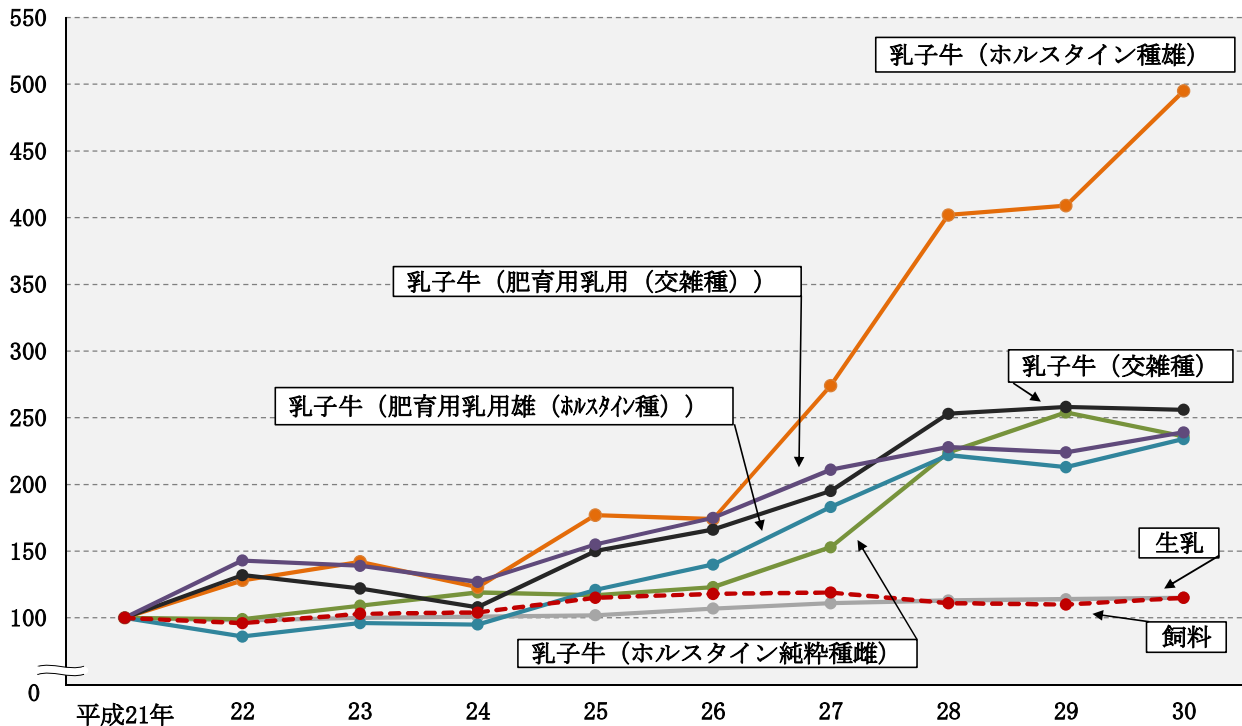
(2) 1頭当たり乳量と生乳販売単価等の推移

- 九州の酪農経営の1頭当たり乳量は、前年と比べ減少。生乳販売単価は、上昇傾向にあったものの、平成30年は前年並み。
- 酪農関係の生産物価格（全国）は、いずれも上昇基調。



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

酪農関係品目の全国平均価格の推移（平成21年=100）



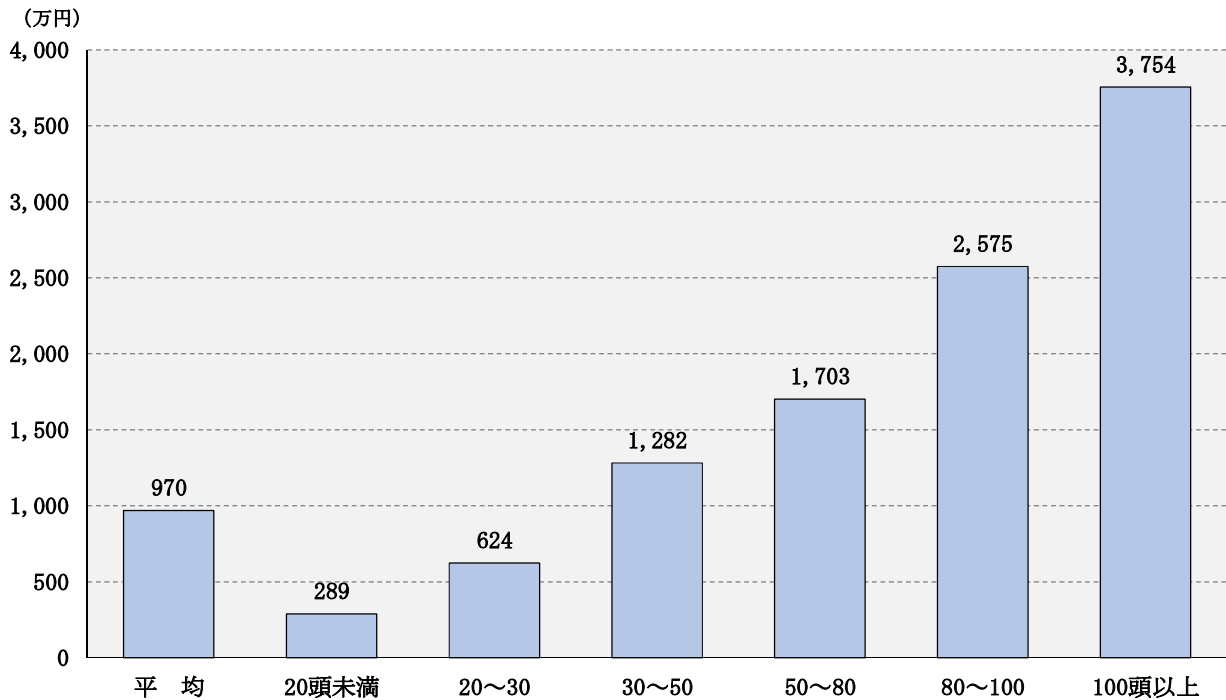
資料：農作物価統計

8 酪農経営の収益性（個別経営）

（3）飼養頭数規模別農業所得と1頭当たり労働時間等（都府県）

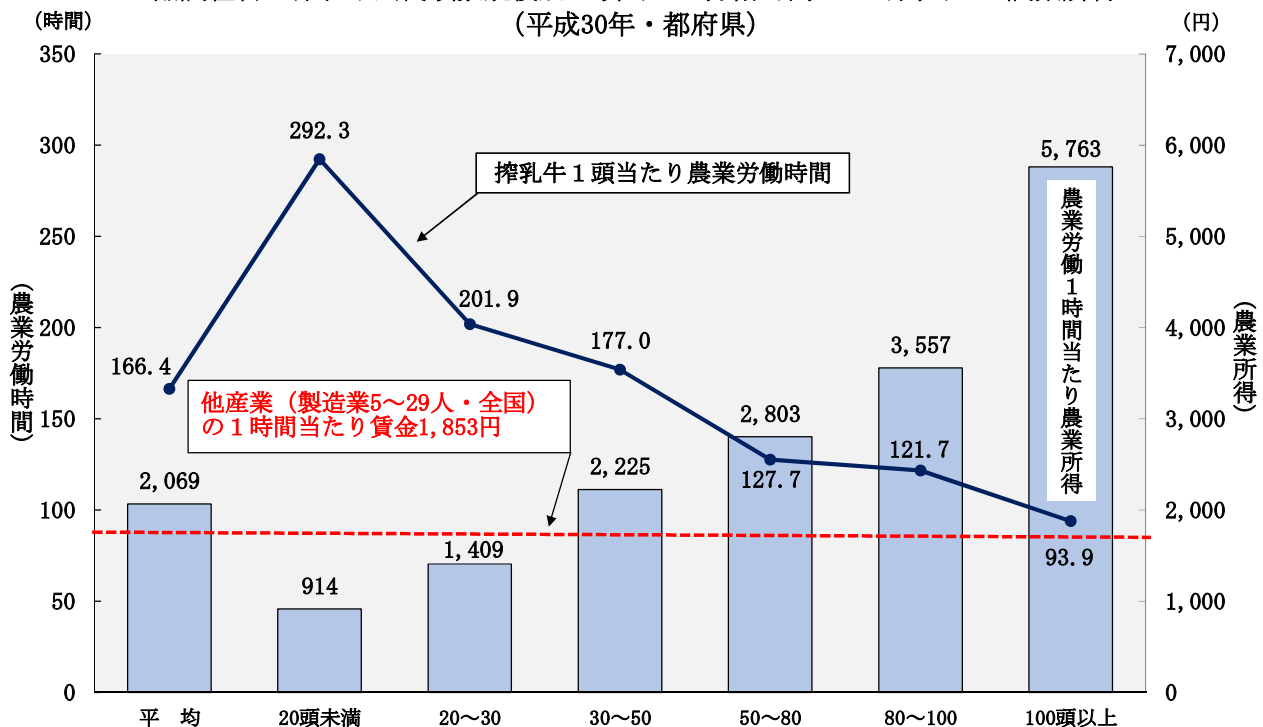
- 酪農経営の1経営体当たり農業所得は、飼養頭数規模が大きくなるのに伴い増加し、30～50頭規模で約1,300万円。
- 1頭当たり労働時間は規模が大きくなるのに伴い減少し、1時間当たり所得は大規模ほど高く、30頭以上の階層では他産業従事者の賃金水準を上回っている。

酪農経営の搾乳牛飼養頭数規模別農業所得（平成30年・都府県）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）

酪農経営の搾乳牛飼養頭数規模別1頭当たり労働時間と1時間当たり農業所得（平成30年・都府県）



資料：農業経営統計調査（営農類型別経営統計）